



カラリオ ミー「E-520」

**セイコーエプソン株式会社**

〒392-8502 長野県諏訪市大和 3-3-5  
TEL: 0266-52-3131 (代表)

<http://www.epson.jp>



この株主通信は、環境に配慮し、「FSC認証紙」と「大豆油インキ」を使用しています。



セイコーエプソン株式会社

2008年3月期 **中間株主通信**  
2007年4月1日～2007年9月30日

# Exceed Your Vision

お客様の期待や想い(Vision)を超える(Exceed)こと。

お客様に驚きや感動をもたらすこと。

私たちは、彩りある豊かな生活を創造する

商品・サービスを提供しつづけます。



## 経営理念

お客様を大切に、地球を友に、  
個性を尊重し、総合力を発揮して  
世界の人々に信頼され、社会とともに発展する  
開かれた会社でありたい。  
そして社員が自信を持ち、  
常に創造し挑戦していることを誇りとしたい。

(エプソンは経営理念を世界の14の言語に翻訳し、グループ全体で共有しています。)

## 目次

連結財務ハイライト	01
株主の皆様へ	02
<b>特集:</b> インクジェットプリンタ、 ホームプロジェクター新商品のご紹介	04
トピックス	07
環境活動	08
グローバル事業展開	09
事業の種類別セグメントの概況	10
連結決算の概要	14
単体決算の概要	16
会社情報/株主情報	17

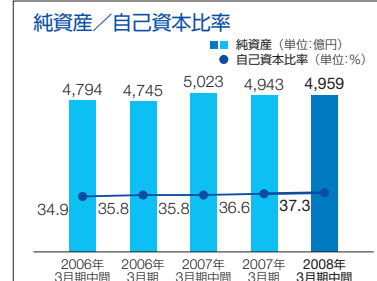
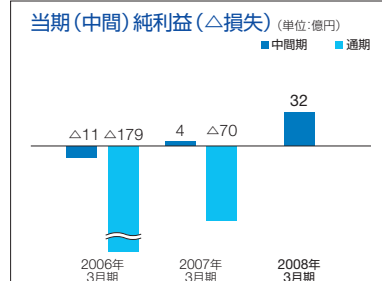
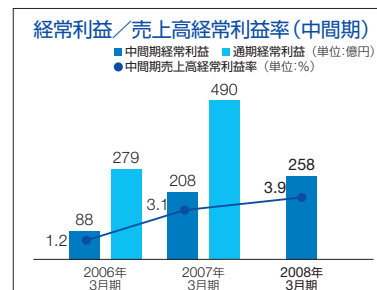
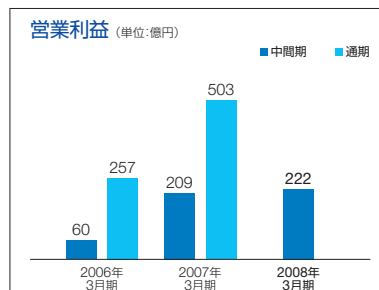
本文中、セイコーエプソングループにつきましては「エプソン」、  
セイコーエプソン株式会社につきましては「当社」と記載しています。

# 連結財務ハイライト

(単位:億円)

	2006年3月期中間 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)	2006年3月期 (2005年4月1日から 2006年3月31日まで)	2007年3月期中間 (2006年4月1日から 2006年9月30日まで)	2007年3月期 (2006年4月1日から 2007年3月31日まで)	2008年3月期中間 (2007年4月1日から 2007年9月30日まで)
売上高	7,202	15,495	6,773	14,160	6,562
営業利益	60	257	209	503	222
経常利益	88	279	208	490	258
当期(中間)純利益(△損失)	△11	△179	4	△70	32
総資産	13,745	13,257	13,262	12,850	12,620
純資産	4,794	4,745	5,023	4,943	4,959
1株当たりデータ(単位:円):					
当期(中間)純利益(△損失)	△5.91	△91.24	2.10	△36.13	16.59
純資産	2,441.77	2,416.54	2,421.06	2,395.14	2,398.10

(注) 1. 金額につきましては、記載単位未満を切り捨てています(1株当たりデータを除く)。  
2. 会計基準の変更にとまない、従来の株主資本を純資産としています。なお、2006年3月期までの純資産および1株当たり純資産は、それぞれ従来の算定方法による株主資本および1株当たり株主資本を表示しています。



(注) 1. 売上高経常利益率は、経常利益を売上高で割って算出しています。  
2. 自己資本は、純資産から少数株主持分を差し引いて算出しています。

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。  
また、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
2008年3月期中間株主通信をお届けいたしますので、  
ご高覧賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長  
花岡 清二

### | 当中間期の概況

当中間期は、情報関連機器事業セグメントにおいて、インクジェットプリンタ事業をはじめ、ビジネスシステム事業や液晶プロジェクター事業などが堅調に推移いたしました。一方で、電子デバイス事業セグメントにおいては、中・小型液晶ディスプレイ事業の採算改善に遅れが生じるなど、全般的に低調に推移しました。以上の結果、当中間期の売上高は6,562億67百万円(前年同期比3.1%減)、営業利益は222億64百万円(同6.2%増)、経常利益は258億46百万円(同23.8%増)、中間純利益は32億57百万円(同688.9%増)となりました。

### | 当中間期の成果と課題

エプソンは、2006年3月に中期経営計画「創造と挑戦1000」を策定し、業績の回復と再成長に向けた各施策を

強力に推進しております。当中間期では、インクジェットプリンタ事業において成果があった一方で、中・小型液晶ディスプレイ事業においては課題が明確になりました。

インクジェットプリンタ事業は、収益性重視の販売戦略によって本体販売数量を絞り込んだ前期に対し、当中間期は、中期的な成長も見据えた数量の拡大へと戦略を転換しました。また同時に、将来の収益の柱とすべく、エプソンの中核技術である「マイクロピエゾテクノロジー」の強みを活かすことができる、ビジネス・産業領域での取り組みを強化しています。こういった取り組みの成果は、新世代高速ヘッドを搭載した大判インクジェットプリンタや、業務用写真プリントミニラボ機の商品化といった形で、徐々に現れてきています。

中・小型液晶ディスプレイ事業では、前期に、4つのテクノロジー(カラーSTN、MD-TFD、アモルファスシリコン

TFT、低温ポリシリコンTFT)の保有によってリソースが分散し、お客様のご要望に十分に対応できなかったことなどにより、大幅に収益が悪化しました。このため、2007年3月に事業構造改革に着手し、将来の事業戦略の展開に対応した財務体質への転換を図りました。当中間期は、リソースが分散したことによる収益悪化の反省を踏まえ、アモルファスシリコンTFTと低温ポリシリコンTFTにリソースを集中し、アモルファスシリコンTFTについては携帯電話向け以外の販売数量の拡大、低温ポリシリコンTFTについては技術力を活かすことのできる新規領域の開拓を進めました。これによって、アモルファスシリコンTFTの稼働率が改善するなど一定の成果はありましたが、市場環境の見極めが不十分であったことなどにより、商品構成の転換が進まず、誠に遺憾ながら収益性についても十分な改善が果たせませんでした。経営としては、このような状況を大変重く受け止めております。

## | 2008年3月期下期に向けて

下期につきましては、収益性改善に向けた諸施策にスピードを持って取り組み、各事業の収益基盤の改善・強化を図ってまいります。

収益性の改善が遅れている中・小型液晶ディスプレイ事業においては、下期も厳しい事業環境が継続することが予想されます。こういった現状を真摯に受け止め、もう一段踏み込んだ施策を実施いたします。

インクジェットプリンタ事業においては、年末の商戦期に向けて、世界各地域の特性に合わせた効果的な販売プロモーションを展開するとともに、ビジネス・産業領域での取り組みを加速し、中期的な成長に向けた基礎固めをおこないます。

## | 株主の皆様への利益還元について

エプソンでは、安定した配当を継続することを、株主の皆様への利益還元の基本方針としております。当中間期につきましては、期初の予想金額を据え置き、前期と同額の、1株当たり16円の配当を実施させていただくことにいたしました。

エプソンは、株主の皆様をはじめとした、すべてのステークホルダーに信頼される経営を目指しています。皆様のご信頼をいただくためにも、将来の売上高と利益の成長に向けて、グループ一丸となって取り組んでまいりますので、引き続き一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2007年12月

代表取締役社長

花岡 清二

## 特集：インクジェットプリンタ、ホームプロジェクター新商品のご紹介

### インクジェットプリンタ

#### もっと、あなたの役に立つ ～使用シーンに合わせて選べるカラリオ～

インクジェットプリンタ事業では、強みであるフォト技術、インク技術、画像処理技術、プリントヘッド技術を活かし、プリントボリュームの多い商品・顧客セグメントの強化・拡大を目指しています。

コンシューマ向け商品においては、基本性能を強化して、お客様に使いやすさ、安心感を訴求していきます。2007年秋には、さらに進化した「Epson Color」など、おうちプリントに役立つ機能を搭載した商品を発売しました。また、モノクロプリントの高速化を実現したモデルなど、ビジネスシーンでの使用に適した商品も発売しました。これにより、使用シーンに合わせて選べる幅広いラインナップが揃いました。

カラリオ・プリンタ  
*Colorio*



マルチフォトカラリオ  
「PM-A840」

#### 「キレイ」と「速い」が進化した、 おうちプリントにもっと役立つフォト複合機

フォト複合機の「マルチフォトカラリオ」3機種を発売しました。今年のマルチフォトカラリオは、より「キレイ」に、より「速く」、おうちプリントを楽しむことのできる、次のような機能を搭載しています。これらの新機能により、おうちプリントのさらなる拡大を図ります。



マルチフォトカラリオ  
「PM-T960」



マルチフォトカラリオ  
「PM-A940」

## ■ さらに進化した「Epson Color」

エプソンは、画像処理技術「オートフォトファイン! EX」、長期保存性能に優れた「つよインク」、美しい仕上がりの「純正写真用紙」の組み合わせで実現される写真プリントを「Epson Color」として、おうちプリントの拡大を推進してきました。今年は、「オートフォトファイン! EX」の、顔の判別精度と色補正精度の向上により、背景もキレイに残したい人物写真も、明るさを抑えたい夜景写真も、バランスよく、自動で明るさを補正することができます。



人物と背景の写真

バランスよく自動色補正

## ビジネス用途にも威力を発揮する、モノクロ高速プリントモデルを発売

ビジネスシーンでの使用に適した新商品として、モノクロ高速プリント、全色顔料インク採用のカラリオ・プリンタ「PX-V780」を発売しました。「PX-V780」は、「高速MACHヘッド」と黒インク2本の搭載により、A4モノクロ文書で1分間に約37枚\*の高速プリントを実現したモデルです。また、発色性、保存性の高い顔料インク「つよインク200X」の採用により、細かい文字やカラー写真が、普通紙や再生紙にもくっきり鮮やかにプリントできます。「つよインク200X」は耐水性、耐擦性にも優れているので、ビジネス文書の出力はもちろん、ダイレクトメール、簡易チラシなどの制作にも幅広く活用できます。さらに、オプションのプリントアダプタにより、無線のネットワークプリンタとして使用することもできます。

\* 印刷スピード算出の詳細情報は商品カタログをご参照ください。

## ■ キレイで速い「高速MACHヘッド」

一度に吐出するインクの量を増やし、吐出回数もアップした「高速MACHヘッド」を搭載しています。インクを5つのドットサイズで制御し、より滑らかな階調表現を可能にした「Advanced-MSDT」(アドバンスド マルチ・サイズ・ドット・テクノロジー)と合わせて、速くてキレイにプリントすることができます。

## ■ 便利で楽しい「ナチュラルフェイス」

人の眼で見た顔と、写真にプリントされた時の顔との間に生じるイメージの誤差を補正する「ナチュラルフェイス」機能を追加しました。小顔や美白といった、本来の自分を再現したキレイな写真をプリントすることができます。



補正なし

小顔+美白補正



カラリオ・プリンタ  
「PX-V780」



参考：海外向けモデル  
「Epson Stylus C120」

## ホームプロジェクター

# 大画面の感動を、あなたへ ～さまざまなニーズに応えるドリーミオ～

# dreamio

液晶プロジェクター市場では、DVDの普及などにともない、迫力のある大画面をより身近に感じることできる、ホームプロジェクターの需要が拡大しています。また、ハイビジョン対応など、高画質を追求したモデルへのニーズが高まることにより、今後もさらなる拡大が見込まれています。

このような市場環境のもと、2007年秋に、フルハイビジョンパネル搭載の本格シアターモデルや、軽量で簡単に持ち運びのできるDVD一体型モデルなどの新商品を発売しました。より高画質の映像を求めめるお客様から、簡単・手軽さを求めめるお客様まで、さまざまなニーズに応える幅広いラインナップで、市場の拡大を牽引します。

### エプソンのテクノロジーが結集した、 本格シアターモデル

ドリーミオ「EMP-TW2000」は、新開発の「DEEP BLACK」テクノロジーで、50,000:1の高コントラストを実現するとともに、開口率が向上したフルハイビジョン対応の新世代液晶パネルの搭載によって、「黒」の再現性が飛躍的に進化したモデルです。暗部の階調性と鮮やかなカラー映像が同時に表現できるようになったことで、より奥行きのある映像をお楽しみいただけます。



DEEPBLACK非搭載  
(EMP-TW1000)



DEEPBLACK搭載  
(EMP-TW2000)



ドリーミオ  
「EMP-TW2000」

### いつでも、どこでも、なんでも 大画面で楽しめる、DVD一体型モデル

ドリーミオ「EMP-DM1」は、従来機(EMP-TWD3)に比べて約半分となる、3.8kgの軽量化を達成したモデルです。本体にハンドルが付いたことで、どこでも簡単に持ち運べます。また、TVチューナー、ゲーム機、パソコンなど、さまざまな外部機器に接続できるので、スポーツ観戦、ゲーム、結婚パーティーでのスライドショーなど、さまざまなシーンでご使用いただけます。



結婚パーティーでの  
使用イメージ



ドリーミオ  
「EMP-DM1」



## トピックス

### 「PX-5800」と「P-5000」が、 欧州で「TIPA Awards 2007」を受賞

大判インクジェットプリンタ「PX-5800」\*と、マルチメディアストレージビューワ「P-5000」が、「TIPA Awards 2007」を受賞しました。

「TIPA Awards」は、欧州12カ国の主要カメラ、ビデオ専門誌31誌の団体が構成されるTIPA (Technical Image Press Association)が、年に1度、欧州で発表された写真・映像商品のなかから、分野ごとに最も優れた商品を選出して表彰する、権威ある賞です。

エプソンはこれまで、プリンタなどの商品やそれらを融合したサービスにより、市場で高い評価をいただきました。今後もデジタルフォトの市場拡大に向けて、先進的な商品・サービスを提供していきます。

\* 欧州における商品名は「Epson Stylus Pro 3800」



マルチメディアストレージビューワ  
「P-5000」



大判インクジェットプリンタ  
「PX-5800」

### 第11回IAAF世界陸上競技選手権大阪大会を オフィシャルITパートナーとして協賛

2007年8月25日から9月2日まで大阪市長居陸上競技場で開催された、第11回IAAF\*世界陸上競技選手権大阪大会を、オフィシャルITパートナーとして協賛しました。エプソンは、1997年の第6回アテネ大会から、オフィシャルITパートナーとして協賛しており、今大会でも、フィールド競技におけるアスリートの動きを新しい視点で分析する独自開発のEPE (Epson Performance Evaluation)システムと、プリンタ、パソコン、Web用端末などを組み合わせたリザルトインフォメーションシステムを提供しました。さらに、このシステムのオペレーションに携わるスタッフを約50名派遣することにより、大会をスムーズに運営し、かつ注目度をより一層高めるためのサポートをおこないました。

\* IAAF : International Association of Athletics Federations  
(国際陸上競技連盟)



## 環境活動

### 「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」の「内閣総理大臣賞」を受賞

財団法人クリーン・ジャパン・センターが運営する、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会の「平成19年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」において、「内閣総理大臣賞」を受賞しました。この賞は、3R（リデュース・リユース・リサイクル）に率先して取り組み、継続的な活動を通じて顕著な実績をあげている個人・学校・事業所などを顕彰するものです。

エプソンは創業時から、自然と共存できる企業を目指してさまざまな環境活動を実施しており、1988年には業界に先駆けいち早く、フロンレス活動を開始しました。その後も、環境への配慮は脈々と受け継がれ、1998年を「第二の環境元年」と定めて全方位的な総合施策を制定しました。現在では、「地球温暖化防止」「資源循環・省資源」「化学物質管理」の3つを環境対策の重点領域と定め、さまざまな施策に取り組んでいます。

そのひとつとしてあげられるのが、ゼロエミッション活動です。1997年より、国内外の各拠点で、事業活動から発生する排出物の100%再資源化（レベル1）を進め、2004年3月期末までに、当時、ゼロエミッション活動の対象となっていたすべての拠点でレベル1を達成しました。現在は、排出物そのものの発生抑制と、より高次元の再資源化（レベル2）に取り組んでおり、2007年9月末までに11拠点がレベル2を達成しました。ゼロエミッション活動の積極的な推進により、2007年3月期は、各拠点から発生する排出物の量を15%以上削減し、さらに、排出物の再資源化・再利用などにより、廃棄量を6%まで削減することができました。今回受賞した「内閣総理大臣賞」は、ゼロエミッション活動をはじめとするグローバルかつ継続的な取り組みが評価されたことによるものです。

長期にわたる活動が、このような形で高く評価されたことを真摯に受け止め、今後もさまざまな環境保全活動に全社をあげて取り組んでいきます。

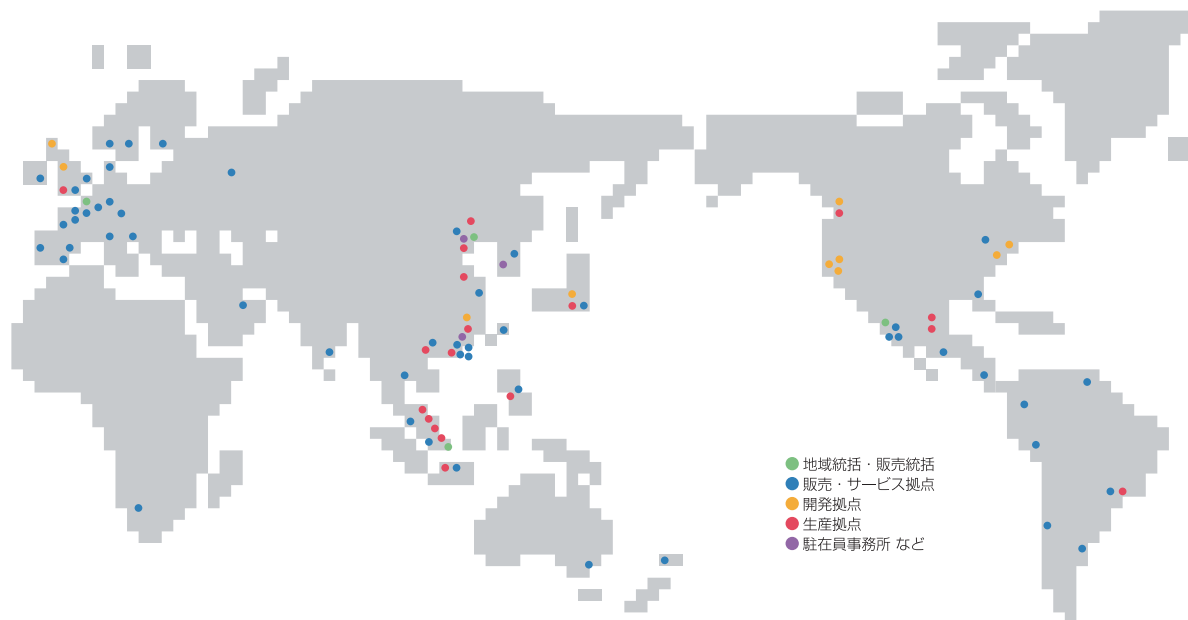


### 「サステナビリティレポート2007」を発行

2007年3月期の社会性活動および環境活動の実績をまとめた「サステナビリティレポート2007」を発行しました。9回目の発行となる今回は、社会性活動を「お客様」「社員」「調達先」「社会」の4つの視点から報告するとともに、環境に配慮した商品の開発、使用済み商品の回収・リサイクル、ものづくりにおける省エネルギー、資源の有効活用など、さまざまな環境保全活動についても報告しています。

掲載ページアドレス：<http://www.epson.jp/csr/report/>

# グローバル事業展開



## ■ 本社および主な事業所

本社	千歳事業所
本店	富士見事業所
広丘事業所	酒田事業所
松本南事業所	日野事業所
島内事業所	塩尻事業所
諏訪南事業所	松島事業所

## ■ 国内関係会社 31社

エプソン販売株式会社  
 エプソンダイレクト株式会社  
 東北エプソン株式会社  
 エプソンイメージングデバイス株式会社  
 エプソントヨコム株式会社  
 オリエント時計株式会社  
 他 25社

## ■ 海外関係会社 83社

**統括会社**  
 U.S. Epson, Inc. (地域統括)  
 Epson Europe B.V. (地域統括)  
 Epson (China) Co., Ltd. (地域統括)  
 Epson Singapore Pte. Ltd. (地域販売統括)

**販売拠点**  
 Epson America, Inc.  
 Epson (U.K.) Ltd.  
 Epson (Shanghai) Information Equipment Co., Ltd.

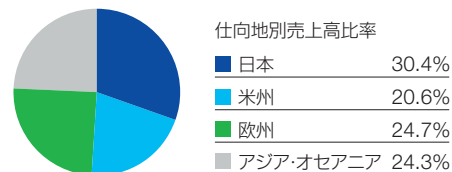
**生産・開発拠点**  
 Suzhou Epson Co., Ltd.  
 Epson Precision (Hong Kong) Ltd.  
 Epson Imaging Devices (H.K.) Ltd.  
 P.T. Indonesia Epson Industry

他 72社

(2007年9月30日現在)

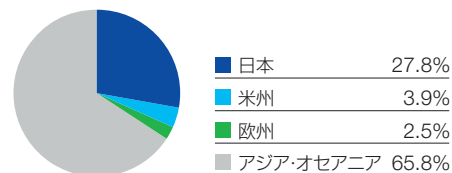
## ■ 連結売上高に占める海外売上高の割合

(2007年4月～9月の6ヵ月通算)



## ■ 所在地別従業員数の割合

(2007年9月30日現在)



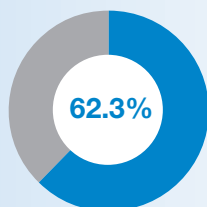
# 事業の種類別セグメントの概況

10～13ページに掲載している、2008年3月期中間の売上高構成比は、「消去又は全社」を除いて算出しています。

エプソンの事業は、主に、情報関連機器事業、電子デバイス事業、精密機器事業の3セグメントで構成されています。ここでは、各セグメントの当中間期の売上高と営業利益について、前年同期と比較して説明します。

## 1. 情報関連機器事業セグメント

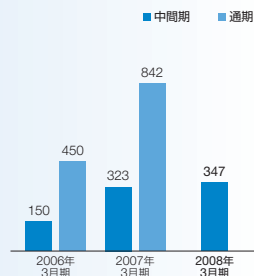
売上高構成比 (2008年3月期中間)



売上高 (単位:億円)



営業利益 (単位:億円)



- プリンタ事業 (インクジェットプリンタ、レーザープリンタ、ドットマトリクスプリンタ、大判インクジェットプリンタおよびそれらの消耗品、カラーイメージスキャナ、ミニプリンタ、POSシステム関連製品など)
- 映像機器事業 (液晶プロジェクター、液晶モニター、ラベルライタなど)
- その他 (PCなど)

## ■ 売上高

当セグメントの2008年3月期中間期の売上高は、4,281億70百万円(前年同期比2.4%増)となりました。

プリンタ事業におきましては、インクジェットプリンタ(消耗品を含む。以下、各種プリンタにおいて同じ)は価格が低下しましたが、マルチファンクションプリンタ(複合機)の販売数量増加や円安効果がありました。POSシステム関連製品は、課金システムを含むカラークーポンプリンタにかかわる売上が堅調に伸張しました。レーザープリンタは、低価格機から高付加価値機への集中を進めたことにともない、販売数量減少となりました。これらの結果、プリンタ事業全体では若干の増収となりました。



新世代高速ヘッド搭載 大判インクジェットプリンタ マックスアートK3 (VM) シリーズ [PX-20000]



単票紙専用 高性能インパクトプリンタ [PLQ-20S]

映像機器事業におきましては、アミューズメント向け液晶モニターの需要が減少しましたが、ビジネス向けの液晶プロジェクターでは、価格低下があった一方で、教育用途での需要増加などにより、映像機器事業全体では増収となりました。

#### ■ 営業利益

当セグメントの2008年3月期中間期の営業利益は、インクジェットプリンタにおいて価格低下や販売数量の拡大のための費用増加などによる影響があったものの、円安効果や、POSシステム関連製品、ドットマトリクスプリンタおよび液晶プロジェクターの増収、レーザープリンタにおける、販売地域と機種を選択と集中によるモデルミックス改善などにより、347億41百万円(前年同期比7.5%増)となりました。



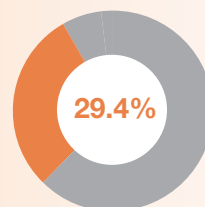
モバイル用オフィリアプロジェクター  
「EMP-X5」



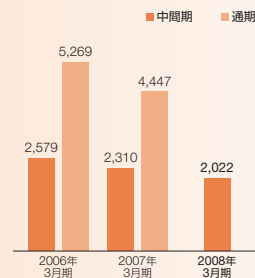
ハイエンドノートPC  
「Endeavor NJ5100Pro」

## 2. 電子デバイス事業セグメント

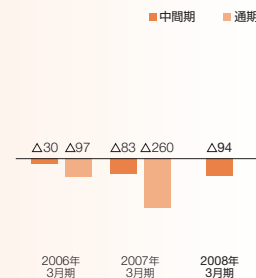
売上高構成比 (2008年3月期中間)



売上高 (単位:億円)



営業利益 (△損失) (単位:億円)



- ディスプレイ事業 (中・小型液晶ディスプレイ、液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネルなど)
- 水晶デバイス事業 (水晶振動子、水晶発振器、オプトデバイスなど)
- 半導体事業 (CMOS LSIなど)

## ■ 売上高

当セグメントの2008年3月期中間期の売上高は、2,022億53百万円(前年同期比12.5%減)となりました。

ディスプレイ事業におきましては、携帯電話端末やその他のアプリケーションの需要が増加したことにより、アモルファスシリコンTFT液晶ディスプレイの数量が増加したものの、カラーSTN液晶ディスプレイと低温ポリシリコンTFT液晶ディスプレイは、価格低下や携帯電話端末向けの受注減少がありました。また、事業終結を予定しているMD-TFD液晶ディスプレイは、数量の減少に加えて価格も低下しました。これらの結果、ディスプレイ事業全体としては大幅な減収となりました。

水晶デバイス事業におきましては、携帯電話端末、デジタルカメラ、PC向けなどの需要増加にともない数量増加

となりましたが、低価格品の比率が上昇したため、水晶デバイス事業全体としては若干の増収にとどまりました。

半導体事業におきましては、携帯電話端末以外向けに複合商品の数量が増加したものの、携帯電話端末用LCDドライバの数量減少と、一般的に価格低下がありました。これらの結果、半導体事業全体では減収となりました。

## ■ 営業利益

当セグメントの2008年3月期中間期は、94億53百万円の営業損失(前年同期は83億33百万円の営業損失)となりました。これは、水晶デバイス事業と半導体事業において価格低下などによりモデルミックスが悪化したことに加え、ディスプレイ事業では固定費が減少した一方で、大幅な減収によって採算改善が遅れていることなどによるものです。



0.7型フルハイビジョン対応  
新型高温ポリシリコンTFT液晶パネル



組み込みアプリケーション向け  
音声ガイド・オーディオデコードLSI\*1  
[S1V3033x]シリーズ



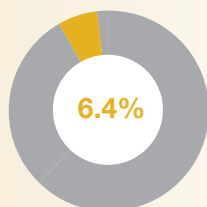
高温保証対応  
リアルタイムクロックモジュール\*2  
[RA-4565SA]

\*1 音声出力の処理をおこなうLSIのこと。家電、住宅設備など、音声ガイドを必要とするシステムに幅広く搭載可能。

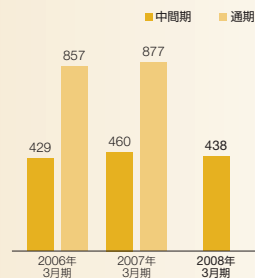
\*2 リアルタイムクロック機能を持ったICと、32,768Hzの水晶振動子を1つのパッケージに収納したもの。コンピュータやFAXなど、時間管理を必要とする電子機器に使用。

### 3.精密機器事業セグメント

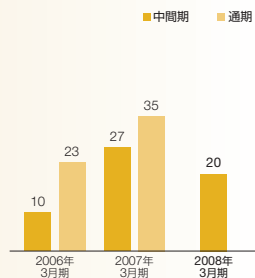
売上高構成比 (2008年3月期中間)



売上高 (単位:億円)



営業利益 (単位:億円)



- ウォッチ事業 (ウォッチ、ウォッチムーブメントなど)
- 光学事業 (プラスチック眼鏡レンズなど)
- FA機器事業 (水平多関節型ロボット、ICハンドラ、工業用インクジェット装置など)

#### ■ 売上高

当セグメントの2008年3月期中間期の売上高は、438億83百万円 (前年同期比4.7%減) となりました。

当セグメントにおきましては、ウォッチの販売において平均価格帯の上昇や円安効果があったものの、前期に工業用インクジェット装置を販売した反動があったことや、プラスチック眼鏡レンズの価格低下などにより、セグメント全体では減収となりました。

#### ■ 営業利益

営業利益につきましては、ウォッチの平均価格帯が上昇した効果があった一方で、モデルミックスの悪化により、20億96百万円 (前年同期比24.8%減) となりました。



グランドセイコー  
スプリングドライブクロノグラフモデル  
「SBGC003」



高速・高精度 新スカラロボット  
「Gシリーズ」

# 連結決算の概要

## 中間連結貸借対照表の要旨

(単位:億円)

科目	2008年3月期中間 (2007年9月30日現在)	2007年3月期 (2007年3月31日現在)
<b>■ 資産の部</b>		
流動資産	8,058	8,139
現金及び預金	1,444	2,967
受取手形及び売掛金	2,279	2,189
有価証券	1,444	309
たな卸資産	1,948	1,786
その他	979	922
貸倒引当金	△38	△36
固定資産	4,562	4,711
有形固定資産	3,684	3,790
建物及び構築物	4,426	4,437
機械装置及び運搬具	5,653	5,605
工具、器具及び備品	2,085	2,079
土地	633	633
その他	80	60
減価償却累計額	△9,193	△9,026
無形固定資産	235	248
投資その他の資産	642	672
投資有価証券	462	481
その他	182	193
貸倒引当金	△2	△3
資産合計	12,620	12,850

科目	2008年3月期中間 (2007年9月30日現在)	2007年3月期 (2007年3月31日現在)
<b>■ 負債の部</b>		
流動負債	4,407	4,767
支払手形及び買掛金	1,455	1,188
短期借入金	342	381
1年以内に返済予定の長期借入金	593	963
未払金	869	1,079
その他	1,145	1,154
固定負債	3,253	3,139
社債	1,000	800
長期借入金	1,810	1,900
その他	443	439
負債合計	7,661	7,907
<b>■ 純資産の部</b>		
株主資本	4,467	4,466
資本金	532	532
資本剰余金	795	795
利益剰余金	3,140	3,139
自己株式	△0	△0
評価・換算差額等	241	236
その他有価証券評価差額金	115	98
繰延ヘッジ損益	1	△0
為替換算調整勘定	125	138
少数株主持分	250	240
純資産合計	4,959	4,943
負債純資産合計	12,620	12,850

(注) 金額につきましては、記載単位未満を切り捨てています(以下同じ)。

### ■ 中間連結貸借対照表のポイント

#### 現金及び預金、有価証券

改正後の中間連結財務諸表規則に基づき、内国法人の発行する譲渡性預金(2007年9月末残高:1,065億円)の科目区分を、従来の「現金及び預金」から「有価証券」に変更したことが変動の主な要因です。

#### 総資産

有利子負債の返済にともなって現預金が減少したことなどにより、前期末に比べて229億円減少しています。

#### たな卸資産

第3四半期以降の商戦期に向けた生産対応により、前期末に比べて162億円増加しています。



### 中間連結損益計算書の要旨

(単位:億円)

科目	2008年3月期中間	2007年3月期中間
	(2007年4月1日から 2007年9月30日まで)	(2006年4月1日から 2006年9月30日まで)
売上高	6,562	6,773
売上原価	4,878	5,158
売上総利益	1,684	1,615
販売費及び一般管理費	1,461	1,405
営業利益	222	209
営業外収益	103	72
営業外費用	67	73
経常利益	258	208
特別利益	5	7
特別損失	42	53
税金等調整前中間純利益	221	162
法人税、住民税及び事業税	93	83
法人税等調整額	79	121
少数株主利益(△損失)	16	△47
中間純利益	32	4

### 中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:億円)

科目	2008年3月期中間	2007年3月期中間
	(2007年4月1日から 2007年9月30日まで)	(2006年4月1日から 2006年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	292	496
投資活動による キャッシュ・フロー	△338	△475
財務活動による キャッシュ・フロー	△337	△134
現金及び現金同等物に係る 換算差額	2	3
現金及び現金同等物の 減少額	△381	△110
現金及び現金同等物の 期首残高	3,348	2,801
現金及び現金同等物の 中間期末残高	2,967	2,690

### 中間連結株主資本等変動計算書 (2007年4月1日から2007年9月30日まで)

(単位:億円)

区分	株主資本					評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その 他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2007年3月31日残高	532	795	3,139	△0	4,466	98	△0	138	236	240	4,943
中間連結会計期間中の変動額											
剰余金の配当	—	—	△31	—	△31	—	—	—	—	—	△31
中間純利益	—	—	32	—	32	—	—	—	—	—	32
在外子会社の会計処理の統一に 伴う減少高	—	—	△0	—	△0	—	—	—	—	—	△0
自己株式の取得	—	—	—	△0	△0	—	—	—	—	—	△0
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	16	1	△13	5	10	15
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	0	△0	0	16	1	△13	5	10	16
2007年9月30日残高	532	795	3,140	△0	4,467	115	1	125	241	250	4,959

# 単体決算の概要

## 中間貸借対照表の要旨

(単位:億円)

科目	2008年3月期中間 (2007年9月30日現在)	2007年3月期 (2007年3月31日現在)
<b>■ 資産の部</b>		
流動資産	4,406	4,106
固定資産	4,513	4,691
有形固定資産	2,267	2,358
無形固定資産	165	177
投資その他の資産	2,080	2,154
資産合計	8,920	8,797
<b>■ 負債の部</b>		
流動負債	3,129	3,226
固定負債	2,721	2,580
負債合計	5,851	5,807
<b>■ 純資産の部</b>		
株主資本	2,960	2,900
資本金	532	532
資本剰余金	795	795
利益剰余金	1,633	1,573
自己株式	△0	△0
評価・換算差額等	109	90
純資産合計	3,069	2,990
負債純資産合計	8,920	8,797

## 中間損益計算書の要旨

(単位:億円)

科目	2008年3月期中間 (2007年4月1日から 2007年9月30日まで)	2007年3月期中間 (2006年4月1日から 2006年9月30日まで)
売上高	4,112	4,181
売上原価	3,561	3,578
売上総利益	551	602
販売費及び一般管理費	383	379
営業利益	168	222
営業外収益	67	110
営業外費用	61	55
経常利益	175	277
特別利益	1	0
特別損失	13	105
税引前中間純利益	163	172
法人税、住民税及び事業税	18	△13
法人税等調整額	53	107
中間純利益	91	78

## 中間株主資本等変動計算書の要旨 (2007年4月1日から2007年9月30日まで)

(単位:億円)

区分	株主資本						評価・換算差額等			純資産合計	
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金 利益準備金	その他 利益剰余金	利益剰余金 合計	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益		評価・換算 差額等 合計
2007年3月31日残高	532	795	31	1,541	1,573	△0	2,900	90	△0	90	2,990
中間会計期間中の変動額											
剰余金の配当	—	—	—	△31	△31	—	△31	—	—	—	△31
中間純利益	—	—	—	91	91	—	91	—	—	—	91
自己株式の取得	—	—	—	—	—	△0	△0	—	—	—	△0
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	16	1	18	18
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	60	60	△0	60	16	1	18	78
2007年9月30日残高	532	795	31	1,601	1,633	△0	2,960	107	1	109	3,069

## 会社情報

- **本社** 〒392-8502 長野県諏訪市大和三丁目3番5号  
TEL: 0266-52-3131 (代表)
- **本店** 〒163-0811 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号  
新宿NSビル  
TEL: 03-3348-8531 (代表)

- **資本金** 532億4百万円
- **創立** 1942年5月18日

- **従業員数** (2007年9月30日現在)
- 連 結: 95,129人  
単 体: 13,192人

- **グループ会社数** (2007年9月30日現在)
- 115社(当社を含む)
- 国 内: 32社  
海 外: 83社

- **役員一覧** (2007年10月1日現在)

<取締役ならびに監査役>		<業務執行役員>	
取締役会長	草間 三郎	業務執行役員常務	矢島 虎雄
取締役副会長	服部 靖夫		John Lang
取締役社長 (代表取締役)	花岡 清二		平野 精一
			上柳 雅誉
取締役副社長 (代表取締役)	丹羽 憲夫		小口 徹
専務取締役	両角 正幸	業務執行役員	内田 健治
常務取締役	大月 康正		濱 典幸
	久保田 健二		有賀 修二
	小松 宏		牛島 升
	碓井 稔		丸山 三明
常勤監査役	木代 俊彦		伊藤 一紀
	真道 昌良		宮澤 要
監査役	山本 恵朗		森 昭雄
	秋山 富一		酒井 明彦
	石川 達紘		小池 清文

## 株式情報

- **株式の状況** (2007年9月30日現在)

発行可能株式総数	607,458,368株
発行済株式総数	196,364,592株
株主の総数	32,838人

- **大株主の状況** (2007年9月30日現在)

株主名	所有株式数 (千株)	所有比率 (%)
青山企業株式会社	20,318	10.34
三光起業株式会社	14,288	7.27
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	14,047	7.15
服部 靖夫	7,246	3.69
服部 禮次郎	7,060	3.59
第一生命保険相互会社	6,240	3.17
セイコーホールディングス株式会社	6,145	3.12

(注) 1. 所有株式数は千株未満を切り捨てています。  
2. 所有比率は小数点以下第3位を切り捨てています。

- **株主メモ** (2007年9月30日現在)

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 0120-288-324 (フリーダイヤル) <a href="http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/">http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/</a>
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
公告掲載方法	電子公告によりおこなう。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載しておこなう。
公告掲載アドレス	<a href="http://www.aspir.co.jp/koukoku/6724/6724.html">http://www.aspir.co.jp/koukoku/6724/6724.html</a>